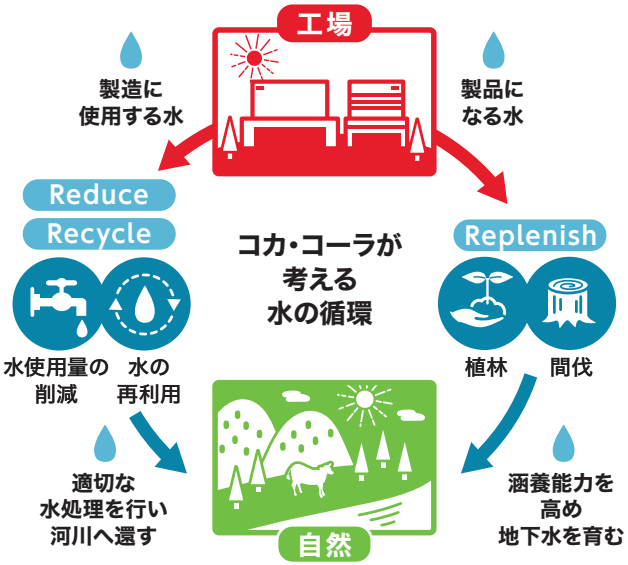
水資源保護活動の推進

人間をはじめとした全ての命の営みの根源にある水資源。その持続的な活用を図りながら、次世代の北海道のためにできることを推進しております。製品に使用した量と同等の水を自然に還元する取り組みもそのひとつです。指針は、3つの「R」。製造過程の水使用量を削減する「リデュース(Reduce)」。使う水を循環させる「リサイクル(Recycle)」。そして地域の水源涵養「リプレニッシュ (Replenish)」です。

札幌工場の水源涵養率

540%以上



白旗山での森づくり〈植樹累計〉

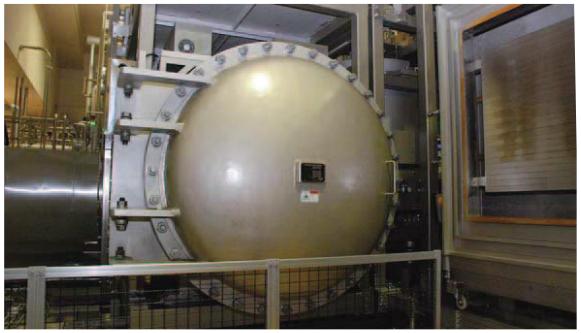
約4,750本

白旗山での森づくり〈協定面積〉

約1,063ha

Reduce 水使用量の削減

製造時に使用する水の効率化を進めているPETボトル製品の製造ラインでは、エレクトロン・ビーム（電子線）を使った殺菌システムを取り入れています。この殺菌方法では、空のボトルの殺菌に薬剤を使用しないため、洗浄水の大幅な削減が可能となります。



エレクトロン・ビーム発生装置

Recycle 水の再利用

札幌工場の排水処理には、微生物の自己浄化サイクルを活性化させて余剰汚泥の発生量を抑える「ラグーン処理方式」を採用。国の排水基準を上回る自社基準を設けています。

ラグーンの様子

Replenish 水源域で森づくり

札幌工場で製造に使用している水は、札幌市清田区にある白旗山を水源とする、長い時間をかけて育まれた地下水です。私たちにとって白旗山一帯はとりわけ重要な森であり、札幌市との「環境事業に関する協定」に基づいて、長期にわたって白旗山の森づくりが進められています。

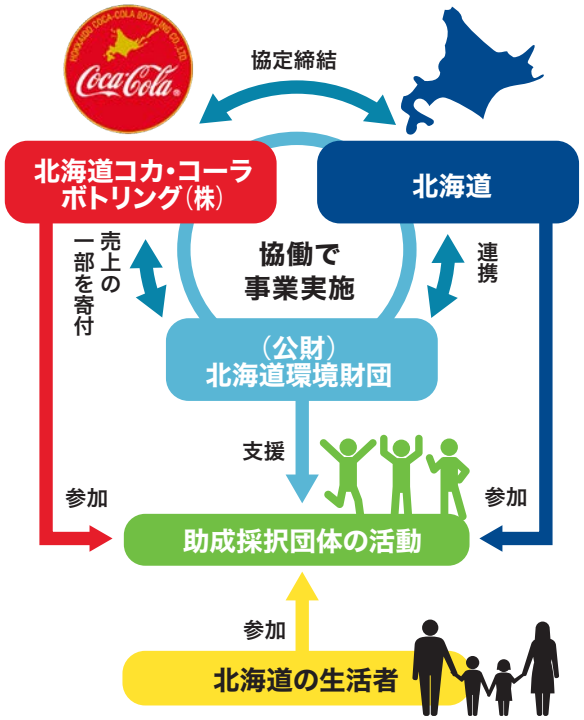
2023年10月にはグループ社員20名が、ミズナラの苗木200本を植林しました。

北海道e-水プロジェクト

2010年に立ち上がった「北海道e-水プロジェクト」は、その前年に北海道と当社との間で締結された「環境保全に関するパートナーシップ協定」に基づき、北海道の豊かで美しい「水」を中心とした自然環境を守り、次世代へと引き継いでいくことを目的としたプロジェクトです。

当社は、「い･ろ･は･す天然水 540㎖PET」の売上の一部を（公財）北海道環境財団に寄付し、道内各地で水辺の環境保全活動に取り組む団体および流域ネットワークの活動を支援する役割を担います。北海道、（公財）北海道環境財団、そして当社の三者協働で取り組まれているこのユニークな事業は2023年で14年目を迎え、これまでの累計寄付額は164,211,210円にのぼります。

また、2024年度より次代を担う若者世代を対象とした「次世代コース」を新設しました。



北海道e-水プロジェクト

北海道e-水プロジェクトへの支援〈累計〉
約1.64億円
延べ179団体

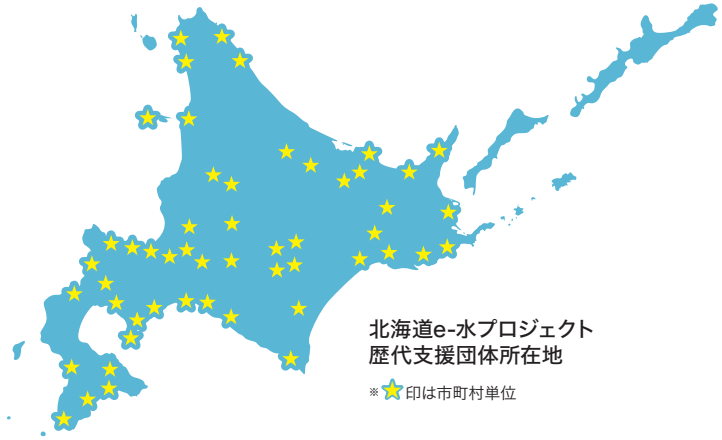
2023年度支援団体（五十音順）

e-水コース（上限200万円）採択団体

- 大沼ラムサール協議会（七飯町）
- オホーツク魚類研究会（美幌町）
- （一般社団法人）楽子森（たのしも・江別市）
- 羽幌みんなで作る自然空間協議会（羽幌町）
- （特定非営利法人）人まち育てI＆I（道央地域）
- （一般社団法人）北海道山女魚を守る会（石狩川水系・尻別川水系）
- UWクリーンレイク洞爺湖（洞爺湖）

しずくコース（上限10万円）採択団体

- 石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク（厚真町）
- （一般社団法人）小樽セーリングクラブ（小樽市）
- 黒松内ぶなの森自然学校運営協議会（黒松内町・寿都町）
- コドモリくらす（旭川市）
- （認定NPO法人）サロベツ・エコネットワーク（豊富町・幌延町・天塩町）
- 十勝川のシシャモを守る会（豊頃町）
- （特定非営利法人）中頓別まちづくり協議会（中頓別町）
- 北海道岩見沢農業高等学校農業土木工学科農業クラブ（岩見沢市・三笠市・美唄市）
- 北海道大野農業高等学校（北斗市）
- 北海道自然観察協議会（石狩市）
- 安春川たんけんクラブ（札幌市）
- （特定非営利法人）Rethink the Nature（富良野市）



北海道e-水プロジェクト歴代支援団体所在地

※★印は市町村単位